

# 印する文字、祀る文字、奏でる文字

漢字のカタチ ④



印章、方寸のなかの華麗な展開…

● 印章に刻まれる文字は、「篆刻」と呼ばれる。「篆」は篆書、つまり大篆、小篆と呼ばれた古代中国の字体の名に由来する①。秦の始皇帝の時代、中国で初めて文字の形と使用目的が整えられた。その成果は、許慎という学者がまとめた辞書、『説文』に結晶している。このころ、いわゆる「小篆」という書体を中心となって、印章の制度が確立される。そこで、印章と方形の関係が定着する。

● 正方形に象られた印章は権威の象徴となり、身分・所有を表すものとされて、後世（元末から明代）には、文人四芸（詩・書・画・篆刻）の一つに数えられるほどになる。こうした展開のなかで、篆刻を用いた印章は方形（正方形）の場と深くかわり、方形の印面を保ちつつける。方形の場に枝葉をのばす漢字の字形の特質に結びつく



① 右ページ上の瓢箪（ひょうたん）形の印章には、「秘寶」の二文字が繁茂する。

② 流麗な筆の流れが、印す「蔵」の一文を、

中国・唐代の書家、懷素の、狂草体として知られた草書体。その右側に縦に並ぶ五つの印章は、

文書の継ぎ目に押される騎縫印。文書の真実性を保証する。

左側に並ぶ多彩な印章は清朝皇帝乾隆帝が好んで捺した、収蔵印。乾隆御覽之寶、乾隆鑑賞、五福五代堂古稀天子寶、などの文字が並ぶ。

（杉浦による配列）